

家園

字体作者：周 慧琚

第23号



特定非営利活動法人

中国帰国者・日中友好の会

〒110-0016 東京都台東区台東 3-35-7

ペガサスミシンビル1階

TEL : 03-3835-9357 FAX : 03-3835-9358

<http://jc-yuko.com/>



オペラ「命をつなげてくれた人——中国残留孤児物語——」記念写真

目次

★ 活動写真.....	2
★ 命をつなげてくれた人——中国残留孤児物語.....	3
★ 2019 新年会.....	4
★ 通所介護「一笑苑」開所祝い.....	5
★ 医療や介護に対する中国帰国高齢者の困難と対策.....	6
★ 第34回中国帰国者日本語発表会「私の人生」.....	7
★ 活動報告・お知らせ・編集後記.....	8

活動記録写真



弁護士 安原先生・清水先生「一笑苑」を視察



弁護士 河合先生など「一笑苑」を視察



2019 新年会にて「採茶情歌」



2019 新年会にて 本会合唱団



北京外交部亚洲局 薛剑参赞 合影 (3/1)



2019 東京国際長征運動会 出発式

命をつなげてくれた人——中国残留孤児物語——

2月4日、慶応義塾大学三田キャンパスにて、古川精一先生が創作・監督したオペラ「命をつなげてくれた人—— 中国残留孤児物語——」を鑑賞した。一人の残留孤児として、その一つ一つのシーンが自分の生い立ちと重なって見えたので、感無量だった。

「残留孤児」の親達は政府を信じ、お国のために、大陸に渡った。しかし、いざ敗戦となると、真っ先に逃げたのは高官高位やその家族だった。旧満州に夢を持って行った、あるいはそこで生まれた160万余りの日本人は、約20万の人が飢餓、酷寒、自決などにより命を落とした。敵国に残された日本人にとっては、中国人の慈悲が唯一の頼りであった。そんな状況の中で、数千人の日本人の子が中国人に引き取られ、育てられた。本劇の主人公の一人である池田澄江は、残された日本人残留孤児の一人だった。

もう一人の主人公である河合弘之先生は終戦後中国の大連から引き揚げて、無事帰国できた。ご本人曰く「一歩間違えば、僕も残留孤児になったかも知れない」。

二人の主人公は当時の朝日新聞記者の菅原幸助が書いた記事で繋がった。河合先生の支援で、池田さんは未判明で就籍の第一人者となった。その後、自らも訪日調査のボランティア活動に励んだ池田さんは偶然にも姉と再会、数奇な運命を辿り、身元の判明ができた。

一方、河合先生も池田の就籍をきっかけに、残留孤児の国籍取得に奔走し始めた。今日まで計1500名の残留孤児を助けた。その殆どは未判明孤児と帰国が家族に帰国を反対される判明孤児だった。日本政府に認められた2800人余りの残留孤児の中で、身元判明できたのは1300人弱だった。未判明孤児は自分のルーツが分からないまま、人生の終点にたどり着くだろう。

すべての残留孤児には物語があり、人に伝えたい思いが山ほどある。僕と一緒に観劇した孤児仲間達は、例え言葉を十分に理解できなくても、物語に感動し涙を流した。80年代から始まった訪日調査は、NHKは「肉親を捜しています」という番組を制作し、残留孤児一人一人にでてもらって、呼びかけてもらっていた。その時、日本中に残留孤児へ対する関心が高まった。それから、30数年が過ぎた。残留孤児に対する関心は日に薄くなっている。特に若い人のなかで、「残留孤児」は日本にいる中国人だと思っている方がたくさんいる。

前事を忘れず、後事の師とする。二度と戦争を起こさせないためにも、より多くの国民にその不幸な歴史を知ってもらいたい。特に未来の一翼を担う若者に残留孤児の事を知ってもらうことに大きな意義がある。

このオペラは「さくら共同法律事務所河合弘之 寄付講座事業」である。この場を借りて、河合先生を始め、オペラに関わったすべての方に敬意を表し、感謝を申し上げます。

(白山明德)

出演：「オペラプロジェクト I、II」授業受講者

演奏：慶應大学オペラプロジェクト I、II オー

ケストラ指揮：古川精一

授業運営：糸川麻里生

授業企画構成／指導：古川精一

オペラ制作／台本／演出／総監督：古川精一

一アリア重唱作詞：吉元由美

作曲：新垣隆

編曲：大沼弘基／一本嶋諭

コレオグラフ：武藤桜子 (NBA バレエ団)



帰国者们迎来新春盛会

笄志刚

早晨 5 点多，收到中国归国者·日中友好之会的池田澄江理事长发来的微信信息，得知昨天她们在东京王子举行了“2019 新年会”。

作为日本国内最大的中国归国者，主要是残留孤儿和残留孤儿二三代组成的 NPO 认定法人，该组织一直致力于弘扬中日友好、民间往来、草根交流和跨国交流，前几年来访中国时，受到时任党和国家领导人及黑龙江等省领导接见。此次新年会受到中日双方高度重视，中国驻日本大使馆政治部参事官倪健、及政治部金潇出席。日方执政联盟的公明党几名重量级议员出席，如众议院议员、公明党重镇太田昭宏、参议院议员西田实仁、东京都议会议员中山信行等。

新年会首先由认定特定非营利活动法人中国归国者·日中友好之会理事长池田澄江致辞，随后倪健、太田昭宏、西田实仁、中山信行等先后致辞。国家赔偿辩护团团长铃木经夫致祝酒词，随后是恳亲交流阶段，然后是文艺演出。平均年龄 70 岁以上的归国者的演出多彩多样，有男女生独唱、男声小合唱，女生小合唱、男女生大合唱、集体舞、诗歌朗诵等，其中中国元素格外突出，凸显这些日本老人的中国心和中日友好的主旋律。中日关系已进入良性互动阶段，2019 年既是深化年，也是关键年。中日友好的基础在民间，未来在年轻人，这些老人无疑是推动中日友好承上启下的重要资源，不可或缺的力量。

笔者也祝福池田澄江老人他们在新的一年身体健康，事业发展，继续为推动两国民间交往发光发热。今天是元宵佳节，也跨洋遥祝这些古稀老人们月圆人安！

笄志刚先生简介：黑龙江省社会科学院东北亚研究所所长、研究员，黑龙江省东北亚区域研究基地副主任，黑龙江省东北亚区域经济省级重点学科学术带头人，黑龙江省社会科学院研究生部世界经济专业日本经济方向硕士生导师，黑龙江省社会科学院学术委员会委员，兼任黑龙江省人大第十一届常委会立法咨询专家、中国亚太学会副秘书长、全国日本经济学会常务理事



2019 新年会



新年会祝辞 鈴木經夫弁護団団長

通所介護「一笑苑・江戸川」開業祝い

文/孙妮・翻訳/佐藤麗子

2019年2月21日、在中国帰国者と在日華人の熱切期待之下、東京江戸川区、【中国語環境】介護施設、本会【通所介護・一笑苑】の開業式、拉开帷幕。

当天早上、入所老人们早早的都换上了像是过节的盛装、翘首企盼的等待开业典礼的举行。在这些老人中、他们有些虽然来自日本其它设施、但在【一笑苑・江戸川】试营业期间、短短的2个月体验中、他们觉得能自由的说中国话、能品尝到地道的中华料理、如家一般温馨而自由的感觉、这也是她们一直以来所寻找的。整洁的环境、齐全的设备、细致周到胜似亲人的工作人员、给他们留下了深刻的印象。

【一笑苑・江戸川】为老人们提供的所有服务、都严格按照日本国家标准执行、让老人们安心、家属放心。经过介护服务后、老人们的身心状态都有了很大的改善、他们变得更强健、变得更乐观；走路来、比之前更稳健。唱起歌来、比之前更洪亮、变得爱交流、变得更爱美。其中、有一位认知症老人、刚开始我们接触的时候、每次迎接都需要为她穿衣带袜、需要很长时间、然而、现在每当我们去迎接的时候、早早的自己穿好衣物、高兴的站在门口、等待我们。看到老人们的变化、我们工作人员深深的感到欣慰、更加增添作好介护的热情。

上午设施内迎来许多嘉宾、电视台的记者、【中国帰国者支援・交流センター】的老师、介护业的同行们纷至沓来对【一笑苑・江戸川】开业表示祝贺。

开业式上、池田澄江理事長、河合律師、安原律師、介護施設負責人佐佐木弘司以及援護基金の田中課長先后发表了热情洋溢的讲话、记者们随机采访了几位利用者、老人们用亲身感受表达了、对【一笑苑・江戸川】的认可与赞许、老人们那可爱的笑脸、令人难忘。

回顾一年多的筹备工作、NPO法人中国帰国者・日中友好之会の【一笑苑・江戸川】从选址到装修运行都得到了社会各界的帮助与支持、我们要特别感谢河合律師、以及辯護団の各位先生的支持、关心、爱护。今后我们将继续为广大中国帰国者以及在日華人解除后顾之忧。

在本会會員及支援者の帮助下、在全体員工的努力下、我們的介護施設將會越來越好、真正成為歸國者老人之家、在日華人之家。也期盼大家一如既往地關心、幫助、支援、並監督我們。

地址：江戸川区平井 4-22-7

2019年2月21日、中国帰国者の熱い期待のもと、東京江戸川区、【中国語で交流できる】通所介護施設「一笑苑」の開業式を開業されました。

当日朝、「一笑苑・江戸川」の利用者の皆様は、早くもお祭り気分の盛装に着替えて、開業式が行われるのを待ち望んでいました。年配者の中には、他の施設から来た方もいます。【一笑苑・江戸川】の試し入所として、わずか2ヶ月の入所体験で、中国語で交流できること、本場の中華料理を味わうことができる。まるで家にいるように和やかで温もりを感じる環境です。ここは本当に彼たちが望んでいた場所でした。清潔な環境、完備した設備、細かい行き届いた配慮と家族のように接してくれるスタッフたちは、利用者たちに深い印象を与えました。

「一笑苑・江戸川」は帰国者たちに提供しているすべてのサービスは介護の国家基準を厳守し、様々な面で帰国者たちを安心させるように努力しています。[一笑苑・江戸川]に来てから、帰国者たちの心身の状態は以前より大きく変わり、より健康的、より楽しく交流したり、以前よりも穏やかになり、歌を歌ったり、コミュニケーションが好きになりました。利用者の中には一人認知症の方がいて、最初に迎えに来るたびにストッキング等を着用するには時間がかかりましたが、今は迎えが到着する前に早めに自分で服を着替えてから、玄関先でスタッフたちを待っていました。皆さんの変化を見て、スタッフ達は満足して、いっそう良い介護サービスを提供するよう情熱を注ぎました。

午前中に施設内で多くの来賓を迎え、テレビ局の記者、「中国帰国者支援・交流センター」の先生方、介護事業を携わる仲間たちが次々と「一笑苑・江戸川」にお集まり頂き開業式を祝いました。

池田澄江理事長、河合弁護士、安原弁護士、介護施設責任者佐々木弘司、援護基金田中課長から情熱をあふれるお言葉を頂きました。記者の方が数名の利用者取材し、利用者たちは「一笑苑・江戸川」について肯定と称賛をしました。皆さんの愛らしい笑顔も忘れられません。

1年余りの準備を振り返って見ると[中国帰国者・日中友好の会・一笑苑江戸川]場所を探しや、内装等を準備し、また、本日開業まで多くの方々のご支援を頂き、特に河合先生、弁護団の皆様のご支援を頂いたおかげで「一笑苑・江戸川」無事に本日にたどり着きました。中国残留孤児、また、すべての帰国者のために安心できる老後生活を送れるよう、私たちスタッフ一同は本会の介護事業の益々な発展を努力してまいります。今後とも温かいご支援とご協力を宜しくお願い申し上げます。

◆募集：介護福祉士、ヘルパー、社会福祉士、介護職、看護師◆

*資格：初任者研修修了、実務者研修修了

*経験者優遇

医療や介護に対する中国帰国高齢者の困難と対策

東京医科大学 医学部看護学科 鹿間 凌

国帰国者とは、昭和20年、終戦直前にソ連軍の対日参戦によって生じた混乱で中国から帰国できなかった日本人及び樺太に在留していた日本人で帰国できなかった人のうち、日本に帰国を果たした者（*1）とされている。厚生労働省によると2018年9月の時点で永住帰国した中国帰国者は家族を含め、20,907人いるとされている。2017年10月の時点で中国残留邦人等の平均年齢は76.0歳、70歳以上は93.4%と、高齢化が進行していることがうかがえる。高齢になると、認知機能の低下や身体機能の低下等により、認知症や脳血管疾患、骨折など様々な疾患に罹患しやすくなるため、医療や介護へのニーズが高まることが推測される。しかし、日中友好の会で実習させていただき、参加者同士の会話はほとんど中国語でおこなわれていた他、参加者が「この人は日本語うまいけど、あっちのテーブルの人はほとんど話せない」とおっしゃっていたことから、中国帰国者は医療や介護を受けるうえでの困難やその対策についてまとめる。

実習での中国帰国者のコミュニケーションの様子から、医療や介護を受けるに当たり、言葉の壁があることで、医療従事者の説明が理解できない、それに伴う不安、医療や介護に関する制度が理解できないことによる不利益があるのではないかと考えた。森田氏は中国帰国者とその家族が医療、介護を受ける上での経験として、自分の症状を日本語で伝えられないもどかしさ、自分のことを本当に理解してもらえるのかを確かめるすべを持たない不安。診察を拒否されること（*2）を報告している。また、医療通訳の存在を知らないなどのサービスや情報の受け身的存在であることの不利益があり、当事者から尋ねて行かない限りは理解できないというシステムになっていることが、よけいに高齢中国帰国者の生きづらさを助長している（*2）と述べている。このような中国帰国者が医療や介護を受ける上で、言葉の壁や制度による困難があることが理解できる。言葉の壁への対策として、医療通訳の活用が必要がある。また、森田氏が行政や医療・介護支援者側も【言葉の壁】を小さくする姿勢や努力が求められている（*2）と述べているように、医療者もコミュニケーション方法を工夫することや言葉が理解できない不安を理解し、関わるのが重要であると考えた。制度の壁においては、中国帰国者から制度に係る情報を得ることができない（*2）現状があり、医療者側から、情報提供していく必要があると考えた。

以上の事から中国帰国者は医療や介護を受けるのにあたり、言葉や制度の壁により様々な困難を感じていることが理解できた。また、対策として通訳やコミュニケーションの工夫により言葉の壁を無くす努力をすること、医療者側から制度に関する情報提供を行い、制度の壁を無くすことが重要である、と考えた。

*引用文献

- 1) 荻野剛史：文献から見る高齢在日外国人等の生活上の課題、福祉社会開発研究、9、115-120、2017
- 2) 森田深雪：中国帰国者とその家族の医療・介護をめぐる経験への考察、安田女子大学紀要、46、259-268、2018

2018年9月から10月にかけて、東京医科大学看護学科が実施する国際フィールドワークの一環として、準教授、呉珠響先生に引率され、計7名の学生には本会の様々な教室に参加し、体験してもらいました。

年寄りばかりで活動している中、初めて若者と一緒の「混成チーム」ができ、いつもより活気あふれる教室になりました。そして、未来日本の医療の一角を担う東京医科大学看護学科の学生には残留孤児のことを知っていただくと同時に、異なる文化背景を持つ人とのコミュニケーション文化の違いを理解してもらうのに、少し役立ちました。レポートから、皆さんが調べたりして工夫をしたことが覗えました。

これから、法律の改正により、外国人が増えるでしょう。そのために外国人と理解しあつたうえでの医療サービスを提供することは大変重要になります。その意味で東京医科大学看護学科の皆さんに実習場所として本会を選んでいただいたのは、本会にとっては日本社会に貢献できるチャンスを与えていただいたことにもなる、と思います。

今後も同じような国際フィールドワークがあった時、是非本会を利用してください。

(池田澄江)

☆ 私 の 人 生 ☆

第三十四回中国帰国者日本語発表会にて 東京セントラル代官山ライオンズクラブ主催

香月英子と申します。今、埼玉県の上尾市に住んでいます。

終戦の時は、私は 5 歳で、記憶には父と母、そして弟の 4 人で暮らしていました。でも、自分の名前、家族の顔を思い出せません。終戦直後のことで、少し覚えているのは、母は誰かに打たれて動けなくなったこと、と弟は井戸に投げ捨てられたことです。その時父と一緒に居ませんでした。日本に帰国してから、根こそぎ動員や開拓団の集団自決を知り、たぶん父は兵隊に召集され、どこかに行かされて、母と弟は集団自決でなくなったでしょう。

どうして私が生き残りましたか、まったくわからないのです。覚えているのは、私一人で泣いたところ、通りかかった一人の中国人に助けられ、その人の叔母の家に送られました。その叔母には子供がいなく、のちに私の養母になりました。

養母に引き取られるまで、私は数日一人でいたみたい、全身に傷だらけで、化膿していました。あと少し遅れたら、命が無かったかもしれない、と親戚に言われました。その傷跡は、いまだに顔に、体に残っています。

養父母の家に行った最初の頃、言葉が分からなくて、泣いてばかりいました。その時、日本とか中国とかには全く意識がなかったので、自分の頭がおかしくなったかな、と思って、すごく不安でした。どのくらい経ったのかが分かりませんが、養父母の言葉が分かるようになりました。

養父母は農家で、私の事を本当の娘のように育ててくれました。時々、周りの人に「あの子は日本人の子だよ」と言われ、泣いて家に帰り、養母に訴えたら、「違う、あなたは私が産んだ子だよ」、と強く否定されました。そして、その人たちを見たら、必ず「日本人じゃない」と大声で怒鳴ったりしていました。

小学校卒業、中学校には進学しましたが、遠いので中退しました。16 歳の時、人民公社の会計になりました。暫くして、小学校に先生が足りないので、ある人に「やってみないか」といわれ、先生にもなりました。19 歳の時知り合いの紹介で、主人と結婚しました。長男が生まれ、家事と仕事の両立が大変でしたので、泣きながら仕事を辞めました。

1972 年日中国交正常化になり、日本に帰国した孤児も続々出てきました。でも夫の両親と私の両親を捨てて帰れないと思って、なんにもしなかったのです。1978 年、養父が亡くなり、周りの方の説得もあり、私は訪日調査に参加することを決めました。希望を持って来日しましたが、失望で中国に帰りました。

夫の両親と私の養父が亡くなった後、子供の事を考えて、帰国を決意しました。当時の政策では、結婚している子は親と一緒に帰国できないので、3 女だけ連れて帰国しました。その時私は 50 歳でした。4 か月の日本語学習を経て、ホテルに就職、定年まで働きました。

私はもうすぐ 80 歳になり、人生の終点が近づいてきています。

最近では、よく両親と弟が夢に出て、私に何かを話しかけてきます、でも、顔はぼんやりして、声もよく聞こえませんが、曇った目を必死に擦って見ようとしたのですが、どうしてもはっきり見えません。いつも泣きながら目を覚めます。弟は生きている可能性がない、とわかっている、男性の孤児に会うと、いつも「もしかして、私の弟じゃないか」と思い、いろんなことを聞きます。

私は自分の名前や両親の顔が思い出したいが、いくら頑張ってもできません。なんて惨めな人生だな、と悔やんだこともありますが、よく考えてみれば、私の母や弟のような満州で自決、飢餓、酷寒で命を落とした 20 万あまりの方たちより、私はある意味で幸運者とも言えるでしょう。でも、この「幸運」は、私が望んでいません。私が望んでいるのは、「残留孤児」が生まれた土壌、つまり戦争が無くなること、そして、私は普通の日本人として、自分の国で胸を張って生活することです。

今日は、皆様の前で、私達残留孤児の人生について知っていただき、平和の大切さを考えていただきたい、と思い、勇気を出してお話をしました。ご清聴、有難うございました。



認定「NPO 法人 中国帰国者・日中友好の会」活動記録 (2018年9月～2019年3月)

2018/09/26	さくら共同法律事務所にて介護事業調印式。河合弁護士・安原弁護士・清水弁護士に立合い頂く
11/26	公益財団法人東京都福祉保健財団から「通所介護・訪問介護一笑苑 江戸川」事業所 指定を受ける
12/01	弊社介護事業部 東京都指定介護事業所 通所介護・訪問介護一笑苑 江戸川 開設
12/08	来年3月開催の国際長征運動会準備委員会開催。
2019/1/18・2/4・2/5	慶應大学にて、残留孤児を題材としたオペラを上演
02/17	東京セントラル代官山ライオンズクラブ主催日本語発表会 弊会から発表者3名 中本富子 香月英子 石原香代子が登壇。熱弁を奮う
02/18	北とぴあにて平成31年NPO 新年会開催
02/21	錦糸町にあるすみだ産業会館及び一笑苑にて オープニングパーティを開催 遠方からのお客様も含め、多くの方々にご出席頂き、感謝申し上げます
2/28～3/5	池田を筆頭に理事計4名が、北京・大連を訪問
3/21～23	草津温泉にて国際長征運動会 競歩大会を開催

お知らせ

★2019 東京桜花国際合唱祭★

4月5日
(金)

★浅草介護老人保健施設訪問公演★

4月23日(火)
演目 日本舞踊・楽器・合唱・太極拳

★ニューヨーク国連本部訪問★

6月6日～6月11日
国連合唱団に招聘いただき、ニューヨーク・ワシントンを訪問交流予定(参加者募集締切)

★NPO 第11回定期総会★

6月22日(土) 予定

《家園》編集委員 (第23号)

白山明德	河村忠志
二田口国博	張 狄
春 暁	入澤美和子
孫 妮	
レイアウト 松本莉恵	

編集後記

国連の舞台上で歌う

♪ You raise me up ♪

每当我心情低落，我的灵魂如此疲惫
每当我麻烦接踵而来，内心苦不堪言
孤独中，我会在这里静静的等待
直到你的出现陪我坐一会
有您的鼓励，我能攀上高山
有您的鼓励，我能横渡狂风暴雨的大海
当我依偎在你的肩头，我变得坚强
因为您的鼓舞，我超越了自己



←这里可以阅读过期「家園」会刊
←会報のバック・ナンバーお読みになれます♪